記者発表資料

平成２４年１０月５日
東北地方整備局
鳴子ダム管理所

鳴子ダムが江合川下流の洪水を低減

～渇水に続く洪水効果～

・鳴子ダムでは、台風１７号に伴う大雨に対し、ダムへの流入量のほぼ全量の約10,000千m3を貯め込み、下流河川の水位低下及び被害の軽減に努めました。
・江合川の流量を最大で437m3/s低減しました。

１．鳴子ダム流域の状況

・鳴子ダム流域では、台風１７号の影響により9月30日夜から10月1日未明にかけて最大時間雨量41mm(流域平均)を記録するなど短時間(10時間)で累加雨量117mm(流域平均)となる大雨となりました。

２．鳴子ダムの効果

・鳴子ダムへの最大流入量は441.52m3/s（10月１日2時50分）を記録しました。（非洪水期では既往第３番目、全体では１２番目）
・鳴子ダムでは今回の出水で流入のほぼ全量の10,460千ｍ３（東京ドーム約8.4杯分）を貯留し、下流河川の被害軽減に努めました。
・もし、鳴子ダムが無かった場合を想定すると、涌谷地点で最大4.16ｍ（※1）の水位の低下に努めました。

※1 涌谷地点の最大流量(125.52m3/s)＋鳴子ﾀﾞﾑﾋﾟｰｸｶｯﾄ量(436.89m3/s)の流量が流れた場合の水位から計算しており、新江合川への分流は想定していない。

（別添資料参照）

３．鳴子ダムの現状　（１０月４日９時現在）

貯水位	ＥＬ	２４４．７１ｍ
貯水量	Ｖ＝	１６，３２８千m3
貯水率		４９％

※「鳴子ダム」の様子は、鳴子ダムホームページ「鳴子ダムライブ映像」でもリアルタイムで見ることが出来ますので、是非ご覧ください。

《 鳴子ダムホームページhttp://www.thr.mlit.go.jp/naruko/ 》

【発表記者会】　古川記者クラブ

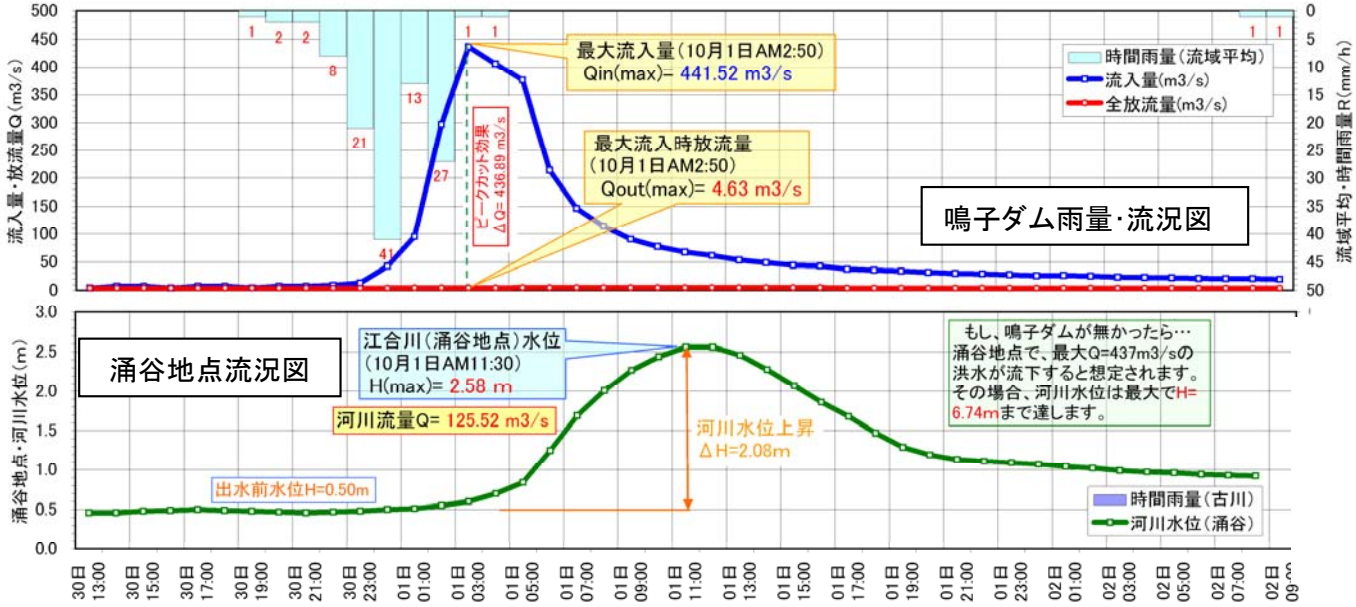
問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　鳴子ダム管理所
所　長　松川　正彦
専門職　浅野　隆郎
〒９８９－６８０６　宮城県大崎市鳴子温泉字岩渕２－８
TEL 0229-82-2341　FAX 0229-83-3855

北上川水系江合川 鳴子ダムの防災効果（平成24年10月1日出水・台風17号）

〇鳴子ダム流域で平成24年9月30日19時～10月1日4時にかけて累計117mm（最大時間雨量41mm/h）の降水が発生しました。
〇鳴子ダムの洪水調節操作により、洪水流入量10,460千m3の貯留と最大437m3/sのピークカットを行い、江合川流域の洪水被害の軽減化を図りました。
〇鳴子ダムから約50km下流に位置する涌谷地点(宮城県遠田郡涌谷町)では、河川水位を4.16m低減させる効果※があったと推測され、仮にダムが無かった場合、河川水位は「はん濫危険水位」を2.14m超過していたと予測されます。

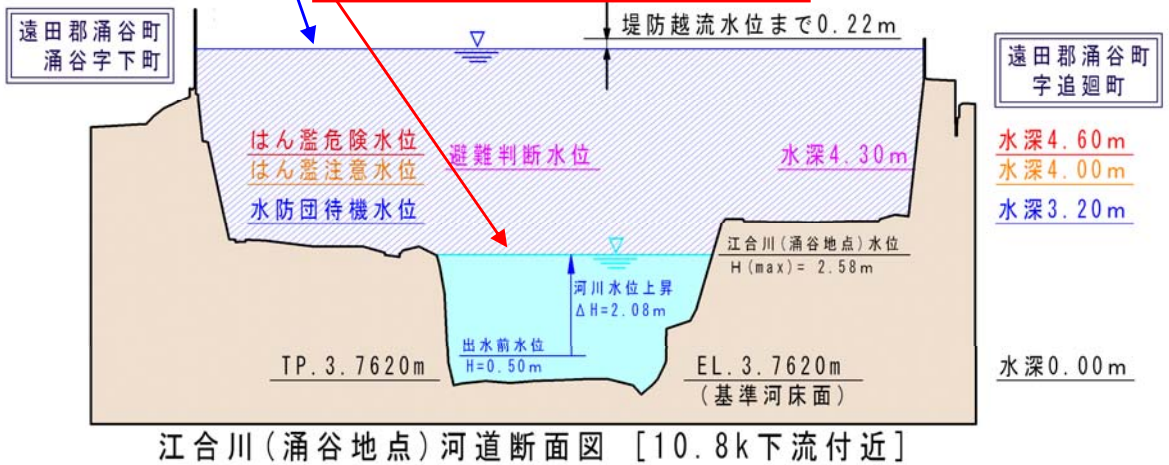






ダムがなかった場合
の推定河川水位
最高水位H= 6.74m
（Q= 436.89m3/s）

江合川（涌谷地点）水位
最高河川水位H= 2.58m（TP.6.342）
H24年10月1日11時30分発生、
Q= 125.52m3/s



江合川（涌谷地点）河道断面図 ［10.8k下流付近］



※涌谷地点における河川水位低減効果量4.16mは、洪水流が新江合川で分流しなかった場合を想定しており、最危険側で算出した概略値である。